

C4. 妙心寺・北野神社 1974

妙心寺 1974

学生時代に訪れた、人が少ない寺社を巡る続きである。

表紙で引用した Google Map 画像からは、寺域は広く、多くの塔頭が見られる。この塔頭の堀に区切られた路地の多くは人通りも少なく、のんびり歩くことが出来る。



初めて行ったときは、市電で白梅町まで行き、嵐電で妙心寺で降りた。降りたところから東を見ると、上図左のように妙心寺の北総門が見える。これで、電線が地中化されれば、いい雰囲気になると思った。中央にある北総門を内部から見たのが右の写真である。石畳の道の両側に生け垣が配

され、その奥に塔頭の門と塀が見える。

次の写真は、塔頭の前庭である。



上の写真は、広角で撮っているから、それ程でもないが、前庭はかなり寸詰まりの感じである。

北総門は裏門になる。正門は、下立売通のノ本北を通る上ノ下立売通に面している勅使門である。この北総門からの道は、裏門へ抜ける道としては立派過ぎ、名前も北門ではなく、北総門となっている。嵐電の開通以後、参拝のコースが変わった後、塔頭の門と塀を下げることにより拡張されたのではないかと思う。



左も他中の前庭と
思われる

Wikipedia「京福電気鉄道北野線」には、

1925(T14)年 京都電燈が北野駅-高雄口駅(現宇多野駅)間を開業、と書かれている。

また、同「丸太町通」には、1966年に西ノ京円町から妙心寺前交差点まで西に延伸、
1970年にはさらに右京区嵯峨釈迦堂大門町まで延伸した。おおむね、この延伸区間
は新丸太町通とも呼ばれる。

また「京福電気鉄道嵐山本線」では、

嵐山本線・北野線の名称を「嵐電」に統一 (2007年3月19日)

と書かれている



左の写真は仏殿で、右に見える法堂には覆いが架けられている。法堂の改修工事を検索したが、わからなかった。

次の写真の右は有名な退蔵院の門と玄関に続く前提である。



この山門・仏殿・法堂・大方丈・大庫裏が並ぶ区域では他に比して大きい。退蔵院も建物の規模からすれば、大きな寺といえる。



上の猫は、退蔵院の墓地で撮ったものと思えるが、定かではない。猫はしばらく止まるため犬よりは撮り易い。

北野神社 1974

北野神社は 3 大路による矩形の内部にある神社では最大規模の境内をもつ神社である。神社は特別な期間を除いて参拝者は寺院より少ない。指

定文化財には仏像や仏画が多く、この差がえいきょうしているのではない
かと思う。考えてみれば、日本の神社の室内装飾は最も単純なものではな
いかと考えている。

Wikipedia「北野天満宮」では

北野天満宮は、京都市上京区にある神社。旧社格は官幣中社で、現在は神社本庁の
別表神社。旧称は北野神社。神紋は星梅鉢紋。通称として天神さん・北野さんとも呼
ばれる。福岡県太宰府市の太宰府天満宮とともに天神信仰の中心で、当社から全国各
地に勧請が行われている。近年は学問の神として多くの受験生らの信仰を集めてい
る。

次の写真は、今出川通りに面して建てられている一の鳥居とその内側か
ら楼門を撮ったものである。





上の写真は一の鳥居から楼門に至る参道脇の石燈籠の列である。何となく物足りない。下の左のほうが良かったかもしれない。



次の4枚は絵馬所である。下部は下右のように休息所になっていた。絵馬・算額も面白いと思ったが、そんなに多くは無いと思われ止めることにした。



北野天満宮ホーム・ページでは

現在の絵馬所は元禄12年1699年に建てられ、規模、歴史は現存する絵馬所のなかでも随一と言われています。京都市指定有形文化財です。

「[絵馬ブログ](#)」には絵馬の写真が掲載されている。

次の写真は、本殿の外壁の軒に吊り下げられている燈籠である。これは、露出とピントは正面の格子状の部分に合わせたと思われる。大まかな構図はほぼ意図したものになっている。引き伸ばしたときはほぼ満足していた。今改めてみると、もう少し右側ではどうなるかというのが浮かんでくる。



Google Map で本殿の左側にある○の1つをクリックしたら本殿の左側面の写真が現れた。この本殿と拝殿の間の縊れ部に下図の釣り燈籠が写っていた。

かすかな記憶と配置から、これを撮ったものと思われる。この写真の燈籠は金色のメッキがされ、レプリカに置き換えられているようである。風情は削がれるが、自然腐敗と盗難や破壊などから守るためには、やむおえないことかもしれない。考えてみれば、手を伸ばせば届くところにあるものが良く残っていたものともいえる。



この本殿・拝殿横や裏側は訪れる人も殆どいない。この付近では、次のような写真も撮っていた。



次の写真は、今宮神社で撮ったものと思っていたが、アルバムの位置からは北野神社で撮ったものと思われ、処置に困っていた。左はほぼ意図したように写せたと思っている。当日の行動を上のように思えば、今宮神社で撮ったことになり、一件落着である。

この写真はほぼ意図したように写せたと思っているが、何かはわかっていない。同様のものは神社で時々見かける。竹を保存しておくもの思ったが、本当かどうかわからない。



あとがき

北野神社では撮影状況が不明なものが多かった。吊り燈籠の写真はかなり時間をかけて撮影したが、それ以外は、あまり時間をかけずに撮ったことによるのかもしれない。一の鳥居から楼門の間はもう少し時間をかけていたらとも思うが、ここは人が多くあきらめた。有名寺社では人が多く、人の入った写真を試みたこともあるが、つぎのことにより時間がかかり諦めた。写る人に嫌がるそぶりがあれば止めることになる。そのまま無視してくれればシャッターを押すことになるが、ここで、カメラを意識して構えるか軽くポーズをとる人が女性に多く見られる。これは人に観点が人にいくことになり、意図したものとは異なってくる。